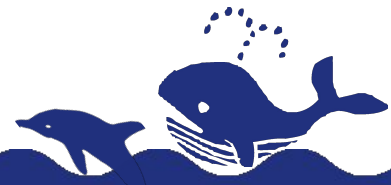




CHANGE FOR THE BLUE in 福井 (CFB・海と日本2023)

一般社団法人福井県プロジェクト



若い世代のアイデアをさらに取り入れ若年層へ訴求！

今年度も県・地元自治体・環境NPO団体・鯖江市役所JK課と連携した活動を多く実施することができ、県内に幅広く海洋ごみ問題を訴求すべく活動を行った。海洋ごみ問題への関心が薄い若年層へ普及するため、鯖江市役所JK課と連携し『POCPOCごみ拾い』とJK課が考案したごみ拾いを実施。拾ったごみによってビンゴができる用紙になっており、子供たちの参加が多く楽しみながらごみ拾いができた。ごみ拾いで拾ったペットボトルをサングラスにし、販売までJK課と一緒に活動をしていく。また、「海のごみ」と呼ばれていたアカモクを使用したオリジナル丼をプレゼン＆試食会する福井県フェスでは、県内出店社がオリジナルレシピを作り対決。グランプリ商品はふるさと納税返礼品として全国へ販売する。他にも海洋ごみ0割が漁具であるため、漁網をリサイクルした素材でコースターを制作し、福井県賛井店舗に配布し、海洋ごみ問題への意識を高めることができた。

2023年度 実施状況について

JK課オリジナルごみ拾い「ビンごみ」& ごみを利用したサングラス制作



概要 23年度はバージョンアップした「ビンごみ」を嶺南でも開催し、幅広い層を巻き込んでごみ拾いを実施。また『ビンごみ』で集めたペットボトルを使い、JK課オリジナルのサングラスを制作。(1月完成予定)

目的 楽しんでごみ拾いに参加できる機会を更に提供することや、ごみからできたサングラスを販売することで若年層を含めた幅広い層に「海ごころ」を啓発していく。

アピールポイント 売上高150億、国内有数のブランドショップ運営企業 株式会社ハピネス・アンド・ディとJK課のコラボが実現。3月イオンモール新小松でJK課と一緒に販売を予定。

効果 参加者はビンゴゲームということもあり、子供の参加率が通常のごみ拾いと比べて高く、JKとコラボすることで幅広い世代への理解を得ることができたと感じている。ごみ拾い後のインタビューでも「ビンゴ形式で色々なごみを楽しみながら集める事が出来た」「子供たちが積極的にごみを拾ってくれ、いい体験になった」といった声があり、若年層のアイデアから海洋ごみ問題について考えてもらうきっかけを作ることができました。

オールプラスチックフリーイベント「福井県フェス」～ごみを宝に！アカモク丼～



概要 漁協と協力して、アカモク収穫・合わせて海藻に絡みついている海洋ごみも回収。福井県フェス出店社にオリジナルアカモク丼を作ってもらいプレゼン＆試食会を実施。好評の丼はふるさと納税として出品、全国に周知する。

目的 「海のごみ」と呼ばれていたアカモクを回収し、丼の材料として利用することを通して海洋ごみ問題啓発を推進。

アピールポイント オールプラスチックフリーイベントで、パラス容器・食べられる器を使用し、イベント器を通して海洋ごみ削減を呼びかける。

効果 「アカモク試食会」では、両日100食限定で配布。30分足らずで全てなくなり、『アカモク』が会場では買えないのかと問い合わせがくるなど、より多くの人に海洋ごみ問題について認知拡大のきっかけを作ることができた。

その他事業: スポGOMIWC、スポGOMI甲子園、海洋ごみ大規模組成調査、海洋ごみ出前授業、コースター制作など

日本のトップリーグに所属！ハンドボールチームとコラボ



概要 CHANGE FOR THE BLUE冠ゲームを福井永平寺ブルーサンダーと実施、試合前やハーフタイム中に海洋ごみについてのクイズ大会を開催。試合後には選手とのごみ拾いを行った。別日にはビーチハンドボール大会を開催。

目的 福井県で人気のハンドボールを通じて、若年層へ海洋ごみ問題を自分事化してもらうきっかけを作る。福井県はハンドボールが盛んで、昨年のインターハイでは準優勝、国体では優勝しており、若い世代への訴求活動ができる。

アピールポイント 「ブルーサンダー」というチーム名は、福井県の景勝である青い日本海をイメージしたチーム名。

効果 クイズ大会では多くの子供たちがクイズ大会とごみ拾いに参加し、海洋ごみ問題を若年層に考えてもらうことができた。

福井を代表する食品メーカーとCFBコラボ商品開発



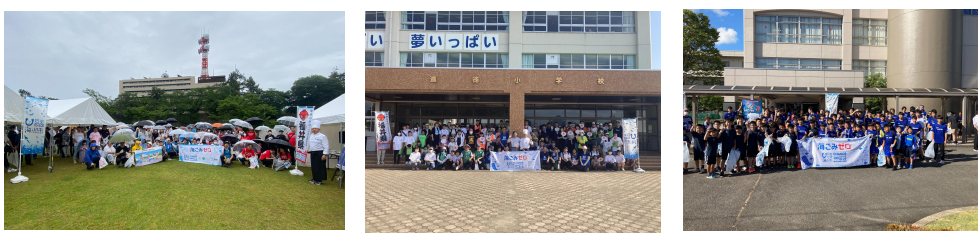
概要 商品開発を通して環境問題に取り組んでいる大本山永平寺御用達の『幸伸食品』と福井県がコラボし、SOYZEN『SOYチーズ』を販売。

目的 商品を通じて、海洋ごみ問題を訴求。

アピールポイント 余った豆乳の有効活用にもなっており、『幸伸食品』はおからを牧場に持って行ったりと、サステナブルな商品開発に取り組んでいる。

効果 福井の直営店/永平寺禅豆腐の郷 幸家・オンライン販売だけではなく、明治屋 広尾ストアでも販売。県内だけではなく、多くの人に商品・商品開発意図を伝えることができた。また、BSよしもとからリリースをみたと連絡があり、「ワシんとこ・ポスト」で紹介された。その際、野坂代表理事が生放送に出演、40分にわたってCHANGE FOR THE BLUEの活動についてなど、積極的にアピールし、海洋ごみ問題を訴えることができた。

海ごみゼロウィーク



ごみ拾い参加人数 **18,750人**

箇所数 **314箇所**
(賛井店300店舗含む)

アピールポイント 福井県や敦賀市、NPO法人、各地域の環境団体と連携することができ、多くの川や海でごみ拾いを実施でき、川や海のごみがいかに多いか、多くのごみが生活ごみであることを参加者に理解してもらった。

メディア露出



メディア露出本数 **TV31本**(CMは1種類で1と数えた場合) **WEB337本**
新聞5紙 掲載

アピールポイント リリースを多く配信したため、WEB掲載の本数が昨年度の2倍以上となった。TVに関してCM放送数を上記に足すと露出はもつとしていることになる。多くの告知で年間を通して、県民に活動を意識してもらうことができた。

2023年度の課題とこれからの展望

今年度開催したごみ拾いにおいて、参加者は多かったが高齢化が進んでいるごみ拾いもあったがJK課やブルーサンダーとの連携でのごみ拾いではより多くの若い世代とごみ拾いを行うことができた。それを踏まえ、来年度もよりJK課との連携を深めることやふくい県民応援チーム『FUKUIRYAS』と連携し、若年層の参加者を増やしていきたい。また、高校生対象の「ふくい海洋ごみアクション選手権」を行い、若年層が海洋ごみ問題を自分事化する取り組みをさらに行っていく。